

〔日本書紀四安寧〕磯城津彥玉手看天皇○安神淳名川耳天皇太子也、母曰五十鈴媛命、事代主神之少女也、三十三年○綏靖、其年七月乙丑、太子○安即天皇位、元年○中尊皇后○綏靖曰皇太后、

〔日本書紀四懿德〕大日本彥耜友天皇○懿磯城津彥玉手看天皇第二子也、母曰淳名底仲媛命、事代主神孫鳴玉女也、○中元年二月壬子、皇太子○懿即天皇位、○中九月乙丑、尊皇后○安曰皇太后、

○按ズルニ、此他日本書紀ニ載スル所歷代大概同例ナレバ略ス、

〔日本後紀四平城〕大同元年五月壬午、追尊皇太后○光仁為太皇太后、皇后○桓武后乙牟為皇太后、

〔三代實錄三陽成五〕元慶三年三月廿三日癸丑、淳和太皇太后崩、○中太后諱正子、嵯峨太上天皇之長女、與仁明天皇同產也、○中略天長四年二月為皇后、○中十年二月廿八日乙酉、天皇○淳遷御淳和院、

讓位於皇太子、○仁明天皇詔、停太上天皇及皇太后之號、即使停廢后宮官屬、仁明天皇受讓之後、三月二日己丑、尊淳和天皇為太上天皇、皇后為皇太后、

〔日本紀略二朱雀〕承平元年十一月廿八日辛亥、詔尊母儀皇后○醍醐子為皇太后、凡服御物、湯沐邑、并職中諸事、皆悉如舊典、

〔續三宮傳〕新清和院、光格帝皇后仁孝母后御諱欣子、後桃園院第一皇女、御母盛化門院、寬政六年三月七日立皇后、文政三年三月十四日御轉皇太后宮、自今奉稱大宮、○節略二大

〔日本紀略三十二條〕長和元年二月十四日壬子、宣命、○中中宮后○彰子為皇太后、

〔續世繼四藤波〕このきささ○后威子一條のうみたてまつりたまへる姫宮、章子内親王と申、二條院と申この御事なり、後冷泉院東宮におはしまえ、時まゐらせ給ひて、永承元年七月に中宮にたゝせ給、治暦四年四月に、皇太后宮にわがらせ給ひき、

〔女院小傳〕皇嘉門院、藤聖子、崇德后、近衛准母、法性寺關白○藤原第一女、母大納言宗通卿女、從三位藤宗子、大治五年二、廿一為中宮、永治元、十二、廿七為皇太后、天皇位、近衛即、

中宮為皇太后

帝王部二十

皇后下

一一七五